

地域トピックス

～地区センターからの話題をお届けします～

◆思い出に残る夏祭り

—小友町—

小友まつり(同実行委員会主催)は8月22・23の両日、小友町の目抜き通りを主会場に開催されました。巖龍神社の例大祭に合わせ、毎年町民総参加で開かれるこのまつりには、町内の8団体が郷土芸能を披露したほか、今年はNHK『いわてみんなのうた』でおなじみの音楽グループ「underpath!」が特別出演。小友小児童と一緒に代表作『たらしら』を歌うなどして盛り上がり、思い出に残る夏祭りとなりました。



アンダーパス(上段二人)と元気に合唱する児童たち

◆25年の功績たたえる

—土淵町—

伝承園前にそびえ立つかっぱの木彫り「安全太郎」の建立25周年を記念した式典が9月3日、土淵地区センターで行われました。安全太郎は、交通安全を願い交通安全協会土淵支部の会員が建立したもので、土淵保育園の園児13人は、毎日地域の安全を見守る安全太郎に感謝の気持ちを込め、丁寧に水洗いしました。式典では交通安全標語の表彰やコンサートなどが行われ、さらなる交通安全を願いました。



感謝の気持ちを込め、安全太郎を水洗いする園児たち



遠野緑峰高校の組織培養室で培養方法を学ぶ研修生

ベトナム農業に本市が貢献

ベトナム農業青年団が来遠

ベトナムの農業青年団19人が9月3日から15日まで遠野を訪れ、地方農業の実態や後継者育成の現状などを学びました。これは国際協力機構(JICA)が主催した事業で、来日したメンバーは同国の農業政策を担う国家公務員など。4日は遠野緑峰高校(藤井洋治校長、生徒231人)で植物の組織培養技術を研修し、培養液の成分や温度管理方法を質問するなど、熱心に学んでいました。グエン・ティ・トウ・ハンさん(26)は「小さい植物を何倍にも増やすこの技術は、ベトナムの農業にも大きく役立つもの」と感想を話していました。



目標に向かって頑張る大切さを発表した菊池喜施子さん

自らの体験生かし力強く発表

わたしの主張遠野地区大会

第11回わたしの主張遠野地区大会は9月1日、綾織中学校体育館で行われました。市内8中学校の代表者9人が、家庭や学校、地域などの体験から学んだことや感じたことを力強く発表しました。

最優秀賞に選ばれた青笹中3年の菊池喜施さんは「伝えたい言葉」と題し発表。病気でなくなった父へ恩返しができなかったことを振り返り、「毎日を頑張ることが父への恩返し。目標に向かってひたむきに取り組むことが『生きる』こと」と締めくくりました。



『世界に一つだけの花』を手話で歌うひよこっこのメンバー

手話と踊りで理解を求める

ひよこっちらイブいん遠野

首都圏を中心に聴覚に障害のある小中高生が中心となって活動するパフォーマンス集団「ひよこっち」(橋本一郎代表)のライブは9月22日、総合福祉センターで開催されました。手話を通じて知り合った松崎町宮代地区の「やかまし村」(菊池美千代村長)が企画したもので、ライブには市内外から約250人が来場。30人の出演者が『世界に一つだけの花』など10曲を、手話と踊りで元気いっぱい披露すると、場内は頭上で両手を花びらのようにひらひらと振る、「拍手」を表す手話でいっぱいになりました。



パン食い競争に挑戦する及川葉子さんと愛犬のゴン太君

キノコの香りでおもてなし

大出秋のキノコまつり2009

遠野早池峰ふるさと学校(江川幸男運営委員長)のキノコまつり2009は9月21日から10月12日までの土、日、祝日、同校で行われています。初日の21日は、市内外から150人が訪れ朝早くからにぎわいを見せていました。会場にはクリタケやマイタケなど8種類のキノコ500パックが並べられたほか、クリやアケビなど秋の味覚が満載。開店30分後にはほぼ完売するほどの盛況ぶり、運営委員のメンバーはまつりの成功に笑顔を見せていました。また、手作りのキノコ汁も振る舞われ、訪れた人たちは山の幸を満喫していました。



歓迎の言葉を手話で述べる白岩児童館「手話クラブ」の児童ら

人と動物のきずなを深める

動物ふれあいフェスティバル

動物ふれあいフェスティバル2009in遠野(上閉伊気仙地方動物愛護管理事業実行委員会主催)は9月22日、銀河の森森林体験交流施設で行われ、犬のしつけ教室や健康相談、運動会などで動物への理解を深めました。催しには、市内外から飼い主ら200人、愛犬50頭が参加。60坪四方のマットに5秒以内に座る「いす取りゲーム」には、愛犬家20組が出場。愛犬たちは、出された指示に従い「お座り」をすると、飼い主からたっぷり褒められ、ちぎれそうになるほどしっぽを振り、愛情に responding していました。



キノコを求める人で埋め尽くされた特設会場